

【十勝東部森林管理署】 木造建築・我が署紹介！



庁舎

するほか、国有林はありませんが、池田町と浦幌町も管轄区域としています。

庁舎は、平成10年2月に竣工し、今年で24年となりました。設計コンセプトは、「人と環境にやさしい木造建築」で、一般の方々に木材の持つ美しさや柔らかさを知っていただくことで、木材を使ってみたいと考え、設計とさせていただいた。また、町内の街並みの景観にも配慮した木造平屋建ての庁舎です。

構造には、トドマツ、エゾマツ、カラマツ集成材を使用しており、また、庁舎外壁四方の中間の一部にはトドマツ、エゾマツの羽目板を使用し、木造建築を十分に思わせる外観となっています。内部は、事務室の中央部に高さ8mの吹き抜けの天窗を設け、自然光が

トドマツ、エゾマツ、カラマツは足寄町産で、ミス



庁舎事務室内



天窗

入るように、木材を放射状にするラーメン構造を採用した組み方をとっています。室内全体に明るい自然光が入り開放感のある事務室が特徴となっています。

庁舎各室の腰壁にはヤチダモ天然木の板を使用し、床は、全てミズナラのフローリングで統一され、木材の持つ美しさや柔らかさ、温かみ感のある造りとなっています。

ナラ、ヤチダモなどの広葉樹は道産木材を使用しており、使用量は、構造材のトドマツ、エゾマツで約82㎡、内装材は、ナラ等で約429㎡となっています。

庁舎は、来訪される方や、庁舎周辺を散歩される地域住民の方から、木材をふんだんに使った建物として見られており、森林を管理している事務所として地域の皆様から愛着をもって親しまれています。

また、当署庁舎にほぼ隣接する足寄町役場も、地元足寄町産のカラマツをふんだんに使用した役場庁舎です。また、足寄町では公共施設を町産カラマツ材で建設し、森林資源を活用した町おこしを進めています。

さらに、カラマツ林地残材を原料とした木質ペレットの利用にも取り組まれており、町内でペレットを製造し、そのペレットを燃料としたボイラーを町役場等に導入し、暖房に用いています。そして、「ペレットをみんなで使って町を元気に」をスローガンとする足寄町木質ペレット燃焼機器導入補助金の制度を創設

し、各家庭でのペレット使用にも取り組んでいます。足寄町では、これらの町産木材の利用推進の取り組みにより、化石燃料の消費を減らしつつ、町の経済と産業を発展させ、また、森づくりを推進することとしています。



足寄町役場

最後に、十勝東部地域は農業・林業を中心とした産業構造となっており、一部は中山間地域もあることから、国有林との関わりも密接な関係となっています。今後、地域の林産業発展のため、積極的な情報発信を行い、各自治体と良好な関係を維持する中から、地域振興に寄与できるよう取り組んでいきます。

十勝東部森林管理署は、十勝川支流の一級河川・利別川上流の日本一広い町、足寄町に所在しています。十勝地域の北部、陸別町・足寄町・本別町の3町の128千haの国有林を管理